

水痘ワクチン

 (対象年齢：生後 12 月から生後 36 月に至るまで)

標準：初回接種は生後 12 月～15 月 追加接種：初回終了後 6 月～12 月

水痘は『水ぼうそう』としてよく知られ、感染力の強い病気です。5 歳までに約 80% の子どもがかかるといわれています。一般に軽症で済みますが、中には重症化し入院が必要になったり、死亡することもあります。

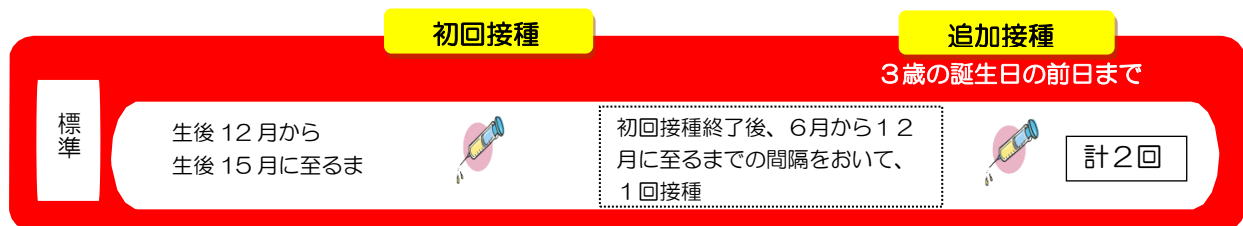
病気の説明

水痘・带状疱疹ウイルスによる急性感染症で、主に空気感染します。潜伏期間は 10～20 日（通常 13～17 日）で、発疹（最初は斑点状紅丘疹でその後水疱となる）と、軽度の発熱を伴って発病します。

リスクとして、免疫不全状態の患者では重症化の傾向、妊娠初期では、胎児が先天性水痘症候群に、分娩直前・直後では新生児の先天性水痘の恐れがあります。また、肺炎や膿瘍疹で重篤になることもあります。

接種時期と回数

生後 12 月から生後 36 月に至るまでに 2 回接種します。標準的な接種期間としては、生後 12 月から生後 15 月に至るまでに初回接種を行い、追加接種は初回接種終了後 6 月から 12 月に至るまでの間隔において 1 回、合計 2 回接種します。



※予防接種前に水痘にかかった方は定期接種の対象にはなりませんので、健康課までご連絡ください。（健康課 TEL：0795-88-5750）

副反応と注意点

健康な小児には副反応はほとんど認められませんが、時に発熱、発疹が見られ、まれに局所の発赤、腫脹、硬結が見られます。

ワクチン接種者の約 20 パーセントが、その後感染を受けると発病（発症予防率 80%）するといわれていますが、もしかかったとしても軽くすむとされています。1 回の接種で十分な抗体しか得られなかった人も、2 回接種することで十分な抗体を獲得できるといわれています。

生ワクチンですから、ウイルスが体内で増えますが、予防接種を受けた人から周りの人に感染することはありません。

※法で定められた期間内に接種されない場合は、自己負担となりますのでご注意ください。